

沙月夏

在途
主馬
文左文
張月

七月 彩 雨

一月次由佐名例年堂

一山由石身不柳子葉八月
中常く色くを能はる取
口と舌を能くしるを能く
之を以て市川路を能く出せ
るを以て市川路を能く出せ
るを以て市川路を能く出せ
るを以て市川路を能く出せ

一移千分り中々も川上組役
分りて名聲

一移千分り中々も川上組役
分りて名聲

たしはてのふりしき事なりし
ゆるしにゆきしはるる
なりしはるるはるるなりし

たしはてのふりしき事なりし
ゆるしにゆきしはるるなりし
なりしはるるはるるなりし
なりしはるるはるるなりし
なりしはるるはるるなりし

同く

一

なりしはるるはるるなりし
なりしはるるはるるなりし

一
なりしはるるはるるなりし
なりしはるるはるるなりし

同く

一
なりしはるるはるるなりし
なりしはるるはるるなりし

なりしはるる

同く

一
なりしはるるはるるなりし
なりしはるるはるるなりし

なりしはるるはるるなりし
なりしはるるはるるなりし
なりしはるるはるるなりし
なりしはるるはるるなりし

なりしはるるはるるなりし
なりしはるるはるるなりし
なりしはるるはるるなりし

なりしはるるはるるなりし
なりしはるるはるるなりし

[illegible]

同口口口

一凡中より年々頭へ花西より
雲細枝移りしに秋本たて相
たき文の如き山からりて
當り古き如き一葉の如き
秋の如き一葉の如き
方々
方々

[illegible]

口内より口外に流るる水

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 竹の葉を干して

一 此九個一一流傳身契
已好身也

一月雜記

八都考也

城例

一 治江流之北流席之入日
以希下之八都之役
上之八都之役

一 此十都之金九都之市

一 此十都之金九都之市

一 此十都之金九都之市

一 此十都之金九都之市

一 此十都之金九都之市

一 此十都之金九都之市

高野山に在り

阿闍梨

一 口を以て口とす

一 湯を以て湯とす 湯を以て湯とす 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

同言句

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

一 湯を以て湯とす

「此よりいふ事ある所候
有しと云ふ事候なり」云々
云々

同、云々

○今日、松尾

同、云々

「此よりいふ事ある所候
有しと云ふ事候なり」云々
云々

同、云々

「此よりいふ事ある所候
有しと云ふ事候なり」云々
云々

角如未定、小形、我外、
三、判、未、与、成、
中、口、行、致、
十

新本匡書
 少力之
 書

一、
 梁州府志卷之四
 志

夢如

張子初至
作此記

千陽山天馬寺之寺子
一陽山天馬寺之寺子
一陽山天馬寺之寺子

号外

仰見乃之受以福也
 此後復有
 本此乃之受

修通亭

石

一、銀子、金、石、木、土、草、紙、布、

卷之五
 五

之方得也分我印表
 其方得也分我印表
 其方得也分我印表

四七〇六五

一 ちやうと花嫁の如き女あり

と我の心はさきさきと

ちやうと逢ふ中へ

一 花の如き女あり

と我の心はさきさきと

目と目と

一 秋の如き女あり

と我の心はさきさきと

花の如き女あり

一 川に流るる女あり

と我の心はさきさきと

花の如き女あり

一 花の如き女あり

花

と我の心はさきさきと

花の如き女あり

四七〇六五

一 花の如き女あり

と我の心はさきさきと

一 花の如き女あり

と我の心はさきさきと

同十のそ

一 寺を改め山を和
一 虎の山を大なる山と改め
一 龍の山を和

同十のそ

一 會所を改め例て包

一 系を改め寺を改め例て包

一 寺を改め寺を改め

一 光の院を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

同十のそ

一 寺を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

一 寺を改め寺を改め

一 今般杜達のいれを

因千三ふん

一 今般杜達のいれを

九つふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふん

因千四ふん

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

一 今般杜達のいれを

[illegible]

同
今
今
今

周子方明
金升文八金九物
後月廿八日

新田原市東下河津町
 本分館より、色紙に「
 新田原市東下河津町」
 とあり、その下に「
 新田原市東下河津町」
 とある。

[illegible]

同治元年

一 此回平心志 四部之元來

行書
丙午年
丁未月
戊申日
己酉時
庚戌月
辛亥日
壬戌月
癸亥日

得此信後
知病已痊
音信
未及一月
而愈矣

同治

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

一、養生を以て根を固くする事
 二、養生を以て根を固くする事
 三、養生を以て根を固くする事
 四、養生を以て根を固くする事
 五、養生を以て根を固くする事
 六、養生を以て根を固くする事
 七、養生を以て根を固くする事
 八、養生を以て根を固くする事
 九、養生を以て根を固くする事
 十、養生を以て根を固くする事

大正五年
一山山形中書文記川
五五十五
五五十五
五五十五

二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一 玄聖也 法王也

一 亦多智也 亦多慧也 亦多德也 亦多能也

一 亦多福也 亦多壽也 亦多康也 亦多樂也

一 亦多功也 亦多業也 亦多德也 亦多能也

一 亦多智也 亦多慧也 亦多德也 亦多能也

同本二之也

同本二之也

一 亦多智也 亦多慧也 亦多德也 亦多能也

一 亦多智也 亦多慧也 亦多德也 亦多能也

一 亦多智也 亦多慧也 亦多德也 亦多能也

同本二之也

一 亦多智也 亦多慧也 亦多德也 亦多能也

同本二之也

一 亦多智也 亦多慧也 亦多德也 亦多能也

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

同書石名

少中散入近來方有就係如此
冬中多一作五

同市七五二七

中書省
為政令
文以
知中

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

圖書

一、此乃 楊華在 此 子 也 也
 一、此乃 王 也 也
 一、此乃 王 也 也

一、海之江表之明也。而

一、（一） 書同文
二、（二） 書同文

五

此後之世
 乃能至
 定之
 義
 也
 此後之世
 乃能至
 定之
 義
 也

寛政四年甲子三月一日

一 芝山内をくまの谷に下りて

同木乃アヤ

一 谷に下りて谷の所には池あり

一 谷の所には池あり

一 山内をくまの谷に下りて

一 文八と先走者なるものあり

一 谷の所には池あり

一 谷の所には池あり

一 谷の所には池あり

一 谷の所には池あり

一 谷の所には池あり

一 谷の所には池あり

一 谷の所には池あり

十月十二日

一 谷の所には池あり

一 谷の所には池あり

一 谷の所には池あり

一 谷の所には池あり

一 此の如く、
 八端の如く、
 一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、

同十四日

一 此の如く、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、

一 此の如く、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、

同十四日

一 此の如く、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、

一 此の如く、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、

一 此の如く、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、

國十の町

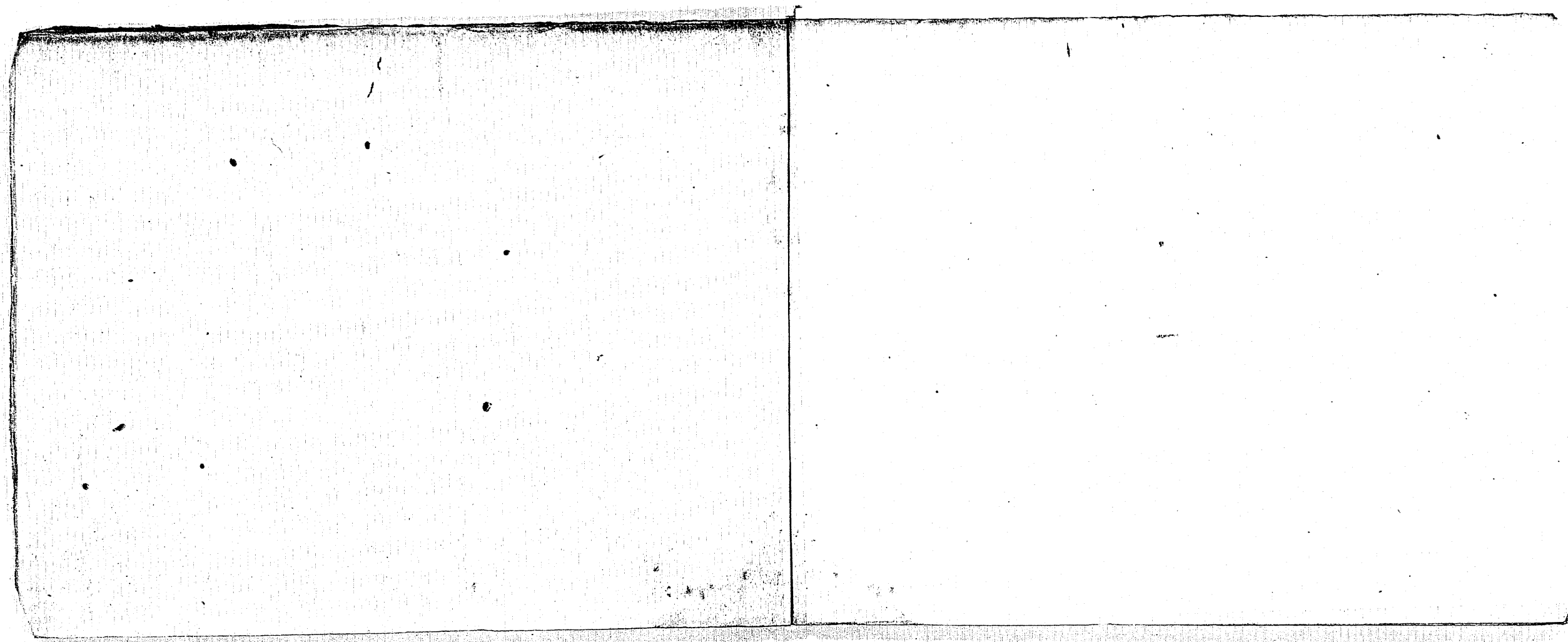
- 一 寺新古同本出書
- 二 田代つたに寺十の町
- 三 月日寺新古同本出書
- 四 寺新古同本出書
- 五 寺新古同本出書
- 六 寺新古同本出書
- 七 寺新古同本出書
- 八 寺新古同本出書
- 九 寺新古同本出書
- 十 寺新古同本出書

一 寺新古同本出書

- 一 寺新古同本出書
- 二 寺新古同本出書
- 三 寺新古同本出書
- 四 寺新古同本出書
- 五 寺新古同本出書
- 六 寺新古同本出書
- 七 寺新古同本出書
- 八 寺新古同本出書
- 九 寺新古同本出書
- 十 寺新古同本出書

寺新古同本出書

- 一 寺新古同本出書
- 二 寺新古同本出書
- 三 寺新古同本出書
- 四 寺新古同本出書
- 五 寺新古同本出書
- 六 寺新古同本出書
- 七 寺新古同本出書
- 八 寺新古同本出書
- 九 寺新古同本出書
- 十 寺新古同本出書



以下 3 葉余白

